

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月20日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2070700246		
法人名	NPO法人生活支援センター オアシス		
事業所名	グループホーム サン・オアシス		
所在地	〒382-0071 須坂市小河原1564-1 (電話) 026-242-3860		
評価機関名	特定非営利活動法人 長野県高齢者福祉協会		
所在地	長野県長野市南長野南県町1001-3 陽光丸ビル4階		
訪問調査日	平成20年11月5日	評価確定日	平成20年12月18日

### 【情報提供票より】(20年2月29日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 3月16日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤2人(兼務0名)、非常勤8人、常勤換算8.2人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	階建ての	~ 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	15,000円/月(当期加算あり)
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200円	昼食 350円
	夕食	350円	おやつ 100円
	または1日当たり		

#### (4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1		要介護2		5	
要介護3	2	要介護4		2	
要介護5		要支援2		0	
年齢	平均 90歳	最低 82歳		最高 98歳	

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭町医院・県立須坂病院・最上歯科医院
---------	--------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

須坂市の北西部の果樹園に囲まれ、オープンガーデンの家の名のとおり、敷地に一歩踏み入れれば施設の回りまた駐車場のある庭には花壇で囲まれ、四季折々の花々が咲き乱れ利用者の心を和ませている。施設周辺の果樹園にはリンゴを始めブドウ、サクランボ等夏から秋にかけてたわわに実りこれまた利用者が慣れたんだ景色に利用者の心を和ませている。また敷地内にある畑では野菜等の種類も多く利用者が管理し作っており皆の食卓にも上がり楽しんでる。利用者の顔色、笑顔から管理者以下職員が如何に「人権を大切に、共に喜びあい、共に生きる喜び、静かでゆったりとした時が流れる自宅と同じ感覚での暮らしを」という信頼される介護を実践している。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回で5回目となる外部評価を受けることで、結果は職員室に掲示し、いつでも閲覧できるようにしてあり、理事長以下、管理者、全職員が一丸となり取り組み、また、職員会議、運営推進会議等で報告し話し合い、前向きに取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が自己評価を毎年実施し、それで終わることなく改善点等を会議で話し合い見直しを図り、評価結果も職員が目につくところに掲示し、常に改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業の現況報告と今後の取り組み、そのときにあった議題(感染症等)、年間を通じて必要とされる議題(防災訓練、行事等)、意見を聞きサービスの向上に取り組んでいる。常に市町村との連携を密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) サンだよりを毎月発行し家族宛に送付している、内容は施設での出来事、お知らせ等を掲載し、また、来所の際にも随時の健康状態、金銭管理等説明している。ご意見箱を設置し、ご意見・苦情・要望等いつでも投稿できる体制になっている、また運営推進会議、来所した際に、家族とゆっくり話し合うことを心掛け、施設運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 施設入口にオープンガーデンの家の案内板を掲げいつでも庭園が見学ができるようにしてあり、また施設の年間行事であるサン祭りには地域住民も多く参加交流している。地域の行事(文化祭等)には施設入居者も参加し交流を深め、地域に溶け込んでいることが伺える。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念「人権を大切にし 共に喜び合える信頼される介護」を施設のホールの誰にも目に付くところに掲げ、実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員との対話の中で、管理者はもちろんのこと職員からも運営理念に対し日々支援に取り組んでいることが伺えた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	オープンガーデンの家の案内板を入口に掲げ誰でも見学ができるようにしてあり、サン祭り等を開催し、地域住民も多く参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価を毎年実施し、それで終わることなく、評価結果も職員が目につくところに掲示し、常に改善に取り組んでいる		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業の現況報告と今後の取り組み、そのときにあった議題等、意見を聞きサービスの向上に取り組んでいる</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村との連携を密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>サンだよりを毎月発行し家族宛に送付している、内容は施設での出来事、お知らせ等している。また、来所の際にも随時の健康状態、金銭管理等を説明している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱を設置し、ご意見・苦情・要望等いつでも投稿できる体制になっている、また運営推進会議、来所した際に、家族とゆっくり話し合うことを心掛け、施設運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少なく、やむを得ない理由で退職した職員も、できる範囲で有料ボランティアとして関係を続け、利用者への影響は見受けられない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ研修会に参加し、その研修をしてきた報告をスタッフ会議等で発表を行い、全員で研修内容を共有し、ケアの質の向上と職員の資質の向上に取り組んでいる。		人材育成の重要性を鑑み取り組み、また、グループホームのネットワークに参加しており、今後も継続してサービスの質の向上と職員の資質の向上により一層の努力に期待をします。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者も職員も善光寺平グループホームネット等に参加し、意見交換等しており多数の職員が参加している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上でサービスを利用するために、来所して頂き、お茶や食事、レクリエーション活動等利用中の人達や職員との交流をし、実際に体験をして頂く機会を設けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が共に過ごす年月の中で、「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築くために、一緒に過ごす時間を楽しみ、また、それを大切に、実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に家庭訪問をし、本人や家族の意向に添っている。 アセスメントもセンター方式を活用し、入居者の日々の生活に生かしている。 それにより職員の声掛けのしかたにも変化が現れている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員を3つのグループに分け担当をきめている。 更にケア会議で検討を重ね入居者本位のプラン作成ができる様にしている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1度のグループカンファレンス及びケア会議で検討し、変化があった時にはその都度見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設「悠々オアシス」とは、日常的につながりを持っており、散歩や避難訓練等一緒に行い、職員の情報交換もできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に見て頂いている。 家族がどうしても都合がつかない時はホームで対応している。 かかりつけ医の往診もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の支援は入居時に重要事項として説明し、主治医とも連携をし取り組んでいる。 過去にリビングウィルにより、ホームでの看取りをした経験もあり職員には見送れたという満足感もある。		職員皆でターミナルケアに取り組んだ経験を生かし、更に研鑽を積み日頃のケアに取り組むことを期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員同士お互いに注意をしながら常に人生の大先輩として接している。 個人情報を使用する際には必ず同意を頂くようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの状況を職員が把握し、個々の要望や好に合わせた支援をしている。		

外部 評価 値	自 己 評 価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	「悠々オアシス」の人達や職員と一緒に作った野菜が食卓にもでる。 終わった食器を人の分まで片付けてくれる人、テーブルを拭いてくれる人、それぞれが自分でできる事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前中に入浴する人、午後が良い人、また、拒否がある人には無理強いせず、声掛けの工夫で入浴してもらえる様にし、それぞれのスタイルで楽しんで頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑で作った物を収穫する人、それを使って食事やお菓子を作る人、手作業を職員と一緒にする人、その人その人に合った支援を心掛けている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買い物等の他、春は桜、秋には紅葉を見に出かける、足湯やハイウェイオアシスにも出かけ、その人の状況に合わせて支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外鍵をかけていない、入居者の居場所確認は常に心掛けており、鏡で確認できる工夫もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の中で夜間の避難訓練は地域と連携しての合同避難訓練等も行われている、また夜勤者は一人で行う初期活動訓練も毎日行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1400~1500cal摂取できる様、献立を考えている、食事量は毎食後職員が確認をしている、食後は必ずお茶を飲んで頂く様しているが、お茶が好きでない人には好みの物を提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの天井からはやさしい陽の光がさし、また、北側は皆が出入できるウッドテラスになっており、外の季節の移り変わりが手に取る様にわかる、玄関近くの畳のスペースではカラオケも楽しめる様になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた物に囲まれて生活できる様、家具等は本人の物を使って頂いている、また、部屋は思い思いの品で飾られており、その人らしさが感じ取れる。		

■ は、重点項目。